



待望の「蓼原大橋」が開通 よろこび合う 駅南北の住民

国鉄富士駅から東へ約1.5kmの地点の東海道本線をまたぐ横割と蓼原地区の南北を結ぶ（田子浦一伝法線）の陸橋「蓼原大橋」の開通式が10月17日現地で、渡辺市長をはじめ齊藤渡辺両代議士ら関係者約200名が出

席して行われました。この渡りぞめ式には、市内本市場の金指満作(78)さん一家三夫婦が揃って渡りぞめを行いました。この「蓼原大橋」は一般市民から公募して命名したもので延長480m、幅員22mで、車道の幅員

は14.5mの4車線に幅1mの中央分離帯が設けられています。

また、橋の両側には、3.75mの歩道も設けられています。工事は、昭和42年に用地買収を完了、同47年着工、総工費7億3,600万円をかけて完成したものです。この大橋の開通によって駅南北の住民はこれで「開かずの蓼原踏切」も解消され交通の便がよくなったとよろこび合っています。